

■ 編集後記

春蘭もようやく薄黄緑の乙な花を咲かせ始めた。今号も大変多くの投稿があり特に大学院卒業生を出した後だけにいわゆる乙論文と思われる単著がめだつた。学会誌のような専門雑誌とは異り各専門部門からの投稿のため実にいろいろな面白い事が知識として得られる。それだけに専門誌以上に十分内容を検討し十分価値ある雑誌に仕上げるには並大抵なものではない。編集委員長は毎日“霜から星”まで一時も休む暇なしである。まさに春蘭の花ことばそのものである。投稿期限があるとはいえ年3回の発行であるからやはり既刊誌をよくみて形式等については十分注意を払うというご協力を望みたい。乙論文の花が開き始めた時期だけにずっと永く満開を続けたものである。(坂巻)

失礼な言い方をお許しいただければ、投稿論文は、まさに玉石混交である。が、特に学位論文には、大変な時間をかけ、日夜懸命に実験した様子が、うかがえるものがあり、たとえ、論文に、さほどのノイエスがなくても、その努力を、たたえたい。学位論文に限らず症例報告的の原著を含めて、自分の大学の雑誌だから少々雑に書いても、採用されるだろうと書きなぐりの論文を投稿される人も居られる。こんな論文を何時間も、無報酬で査読をさせられるのはかなわない。われわれの岩手医科大学歯学雑誌を一層評価の高いものとするために、どうぞ充分な時間をかけて書き上げた論文を投稿していただきたい。

(太田)

後期試験や学会準備等の仕事の合間を縫いながら論文の査読がようやく終り、ほっと一息ついている所ですが、どうやら今度の冬はスキー場に行くこともままならず終りそうです。本号へ投稿した方々

の多くは論文を書き馴れておられるので、今回は少し楽をさせていただきました。前号に続き、本号も結構な厚さになる様ですが、会員各位の次号への投稿も宜しくお願い致します。(佐藤)

最近、学位論文の掲載が多くなり、以前の薄かったものが厚くなり、雑誌としての体裁が整ってきたように思われる。しかし、限られた予算内で編集されるために、一定の原稿枚数が投稿規定にあることが、あまりよく読まれていないようである。今後、是非ともこの点の徹底化が図られるべきであろう。もちろん、文章自体の冗長に過ぎるものや、重複する場合などもあるが、何故に自分の労作が短縮または削除されるのか、理解できない投稿者も多いのではないかと感じます。(工藤)

昨年12月に11巻3号の編集が終り、ほっと一息ついている間に、12巻1号の編集が始まりました。原著8編、症例3編と前号なみのボリュームになり、編集委員は悲鳴を上げています。次号からは編集業務の軽減と、投稿の規格化のために、「投稿票」と「チェック票」を用意しました。投稿者は事務局に投稿票とチェック票を請求し、投稿の際には、みずからチェック票の項目にチェックを記入して頂きます。事務局で再チェックして、不備の原稿は著者に返却して再提出していただく事になります。よろしく御協力のほどお願い申し上げます。

次号(12巻2号)の締切日は6月15日です。投稿はいつでも受付けております。投稿予定者は早めに投稿して下さい。そのぶん、われわれ編集委員は心のゆとりを持って編集するよう心がけたいと思います。(名和)

岩手医科大学歯学雑誌
第12巻 第1号

昭和62年4月25日 印刷
昭和62年4月30日 発行

発行人 鈴木 隆
発行所 岩手医科大学歯学会
盛岡市中央通1-3-27
岩手医科大学歯学部内
振替口座 盛岡 1358
電話 0196-51-5111

印刷所 川口印刷工業株式会社
盛岡市本町通2-13-8